

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

No.69		矢沢地域		生物地理区分		コナラ林(東日本)	
				地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	岩手県		地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	花巻市			4.低地	5.その他	
	集落名称等			環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
			4.畑		5.小川・水路	6.ため池	
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況 天然記念物(県)	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価 「田園自然再生活動コンクール」受賞(平成18年)
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状



撮影時期：平成22年
写真の説明：自然観察会
ゼニタナゴ育成池に地曳網を入れ、タナゴの生存調査・生息数・外来種駆除を年1回、会員・賛同者で行っている。



撮影時期：平成20年
写真の説明：自然観察会
ビオトープにて、タモ網を使い、生物調査・外来種駆除を兼ね、子供体験型の自然観察会を行った。

No.69	矢沢地域		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	岩手県		2.団体・企業・学校等
	市町村	花巻市		3.行政による支援施策の活用
	集落名称等			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他

取組主体	主な主体の名称	矢沢地域の自然保護を考える会		
	その他の主体の名称	花巻市、岩手県、北里大学、岩手大学、矢沢自治会ほか		
目的 :主 :その他	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会	*	自然観察：地域の子どもや住民を対象に、ゼニタナゴ生存環境及び水源である大森山の自然観察を年2回実施。キンラン、イカリソウ、ギンラン、チョウトンボ、シロタンボガ等ゼニタナゴ以外の珍しい動植物を観察。	
	環境教育・学習活動	*	環境講座：ゼニタナゴ生存環境保全及び里山景観保全を中心にした講座を年2回開催。講師は大学教授、専門家を招聘。地域振興局長はじめ行政からも参加し、講座終了後は住民との懇親を深めている。 生物調査・外来種駆除：大学生50名位の協力を得て毎年実施。大学生の実践教育の場となっている。	
	里地里山体験・環境保全	*	環境整備実践教育：養護学校の実習授業の一環として、山林整備、草刈り、不要物解体撤去、清掃等を年2回(各5日間)実施。	
	農林業体験活動			
	エコツアー			
	その他			
取組内容	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
		<p>・地元自治会が、2005(H17)年、「矢沢地域の自然保護を考える会」を立ち上げ、絶滅危惧種 A類のゼニタナゴ及びシナイモツゴが生存できる農村環境を目指し、様々な活動を展開。同会は、農家主体の自治会の内部組織であるが、非農家会員や自治会外(都市部、県外)からの個人会員も活動している。</p> <p>(ゼニタナゴは平成22年10月1日に岩手県天然記念物に指定)</p> <p>外来種(ブラックバス、ブルーギル、ザリガニ)の駆除 県からの受託により、休耕田に設置したビオトープを維持・管理。 溜め池の生物調査・泥上げ・草刈り・水質調査・水源の山林整備 自然観察会など環境教育の実施(上記参照) 矢沢地域の水利組合管理の溜め池や外来魚駆除や周辺環境整備に参加。 水辺環境を考えるワークショップの開催</p>		
連携・協働による取組	内容・役割分担等	<p>・大学、研究機関の指導を受けるとともに、「矢沢地域の自然保護を考える会」の会員の中に元教師や水産・農業・環境に関する専門家がいて、効果的な活動を展開。都市部からの入会者や、自然観察会等を通して都市部住民との交流が増えている。</p> <p>水辺環境を考えるワークショップ 矢沢地域の自然保護を考える会を中心に、行政、土地改良区、有識者(大学、研究機関等)らで開催。自然環境保全と農業との共生について検討。</p> <p>活動の役割分担 行政(花巻市、岩手県花巻総支所、猿ヶ石北部土地改良区):活動計画や行政申請へのアドバイス。情報収集。ワークショップの計画作成等の協働。 専門機関(北里大学、岩手大学、環境保険研究センター、振興局希少動植物調査委員会、NPOイーハートープ里山水生生物保存会):会の活動への指導、生物調査の実施。 矢沢地区(土地改良区総合正義事業推進協議会、矢沢ため池水利維持組合、矢沢行政区、矢沢自治会):環境整備の協働。</p>		
取組の特徴や強調したい点				

取組の概要	ゼニタナゴを中心とする淡水魚類の保全活動、環境教育等を実施	課題グループ
事例の特性	希少水生生物保護、外来種駆除	野生生物 学習体験
取組の中で他の地域の参考となる点	淡水域の希少生物であるタナゴのいるため池に戻すため、地元住民が保護する会を立ち上げ、外来種の駆除、地域の子どもたちの環境教育、先進地との交流などを通じて水辺環境の保全活動を展開している。	

資料:「田園自然再生生活動コンクール応募用紙」(広田氏提供)、「矢沢地域の自然保護を考える会」
<http://homepage2.nifty.com/ea21towa/index.html>